

平成23年度 第3回総合計画審議会(6/30) 第2章関連意見一覧

節・項		意見	対応
第2章	全体	<p>各施策の方向があるが、その方向についてその通りにいつているかどうかを判断するためにも、管理目標値が必要である。方向性についての進捗管理ができる指標はどこにあるのか。</p> <p>先程もごみ処理の収集体制の充実で、自治会の加入率が低いということであれば、加入率を計画期間における目標指標とすればいいのではないか。それぞれの方向を決めたのであれば、それぞれに目標指標があつてしかるべきであり、何をもって確認できるのか。</p>	<p>現在、記載している目標指標については、めざす姿として基本計画の頂点である項に対する指標としておりますが、施策の方向の指標化について、再度庁内で検討していきます。</p>
		<p>財政推計の中、9年間の事業費が出てくると思うが、そういったことはやっているのか。道路を作るのであれば何メートル整備するのか指標の中で明らかにしていく必要があるのではないか。</p>	<p>財政推計など変動する可能性はあることから、詳細の部分については、記述している方向性に沿って3年間の実施計画の中で表現していきたい。</p>
		<p>掲載している目標指標のレベルが不明である。簡単に達成できる目標なのか、非常に困難な目標なのかよくわからない。この指標はどこから出てきたのか。</p>	<p>目標指標については、それぞれ指標の設定調書を作成しているが、各指標ごとに実行性のある指標の設定を心がけています。</p>
第1節 第1項	緑化の推進	<p>緑が減少している状況の中、町には街路樹がない。屋敷林が減っていると言っているが、植栽するにも宅地は狭いため、河川敷や街路樹などが少ないといった課題があるのではないか。この項では緑の保全ではなく、緑化の推進である。</p>	<p>屋敷林などの緑について、都市化の進展とともに減少している状況であり、街路樹は大きな役割を担っている。しかしながら町道においては道路幅員も狭く、街路樹も植栽できる場所も少ないことから、生け垣等による緑化を推進している。</p> <p>また、第2章については自然環境の分野であり、公園等については第1章関連であることから、街路樹等は第1章の中で対応いたします。</p>
		<p>目標指標の中で、自然環境保全地域面積などの記載があるが、現状も将来値も同じ数値が記載されている。こういったものを指標化するのはどうかと思う。少しでも改善するなど上昇指標とすべきではないか。検討いただきたい。</p>	<p>町の自然環境保全地域としては、越の山と寒川神社があたるが、この保全地域を将来にわたって保全する意味合いから同数を掲載しているが、この辺の指標のあり方についても検討を加えていきたい。</p>
		<p>自然環境保全地域に対して、維持管理を行いながら保全していくのか、それとも放置した状態で保全していくのか。例えば里山の維持のためなど新たな事業、アイデアとして見えてこないものか。町民から公募して里山の維持管理ボランティアなど新たな施策が必要ではないか。</p>	<p>ワークショップから住民協働で実施するなどご提案をいただいているが、住民協働にあたっては施策推進の中で記述しておりますので、住民の力を借りながら実施していきたい。</p>

平成23年度 第3回総合計画審議会(6/30) 第2章関連意見一覧

節・項		意見	対応
第2節 第1項	環境共生の推進	環境基本計画で、取り組みの効果が短期間で現れないものも多くと記載があるが、これが施策の方向の中でどのように反映されているのか。	総合計画は町の最上位計画であり、施策の方向性について記述しており、より具体的なものは下位計画の個別計画で実施していくものですが、この現況と課題の部分で記述については担当課等と調整いたします。
		環境共生の推進の目標指標の中で、ISO14001の推移が書かれているが、今後環境との共生を推進していくにあたっては、ISO基準は絶対条件である。工業系だけではなく、商業にも必要であり、それを指導していく行政機関においても取得すべきと思うが。 また、ISO認証を取得する時点でも、大変な費用がかかるので、取得する、しないに関わらず指導する立場としてどのぐらいのスキルを持つかが重要である。	町でも取得の必要性について検討を重ねてきているが、取得するメリット・デメリットを考えながら担当とも協議いたしますが、取得維持にあたっては大変な労力と費用がかかるため、ISOに対するあり方や指導する立場としてのスキル向上が必要である旨を担当とも調整いたします。
		ISO認証には、維持管理に費用がかかるが、多くの公共では安く上げるため、簡易なISOをやっている。資格を持つ人を育成し、お金をかけずにやることもできる。まだ、やり方も工夫できる部分があると思うので、環境とも調整してもらって、町としてどういった方向でいくか検討いただきたい。	町職員に対し、環境の一般常識的なものは実施しており、試験的に環境基準にあったモデル所属による実施なども考えている。 総合計画に位置付けることはなく、考え方としては持っているが、ISO取得には貴重な税金を使用して取得するため、どう入った形が一番良いのか検討していきたい。
		やはり、まずは町で率先して取得すべきだと思う。ただし、企業は継続していかないといけないが、行政は体制が整えば後は自主的に管理すればいいことなので、その辺の検討をお願いしたい。 役場の職員が資格を取得するなど努力したらいかがか。	現在、職員の資質向上を目的に職員研修を実施しているので、資格取得等について研修事業の中で対応できるものは対応していきたい。
第2節 第4項	廃棄物の適正処理	基本方針では、ごみの収集時における分別の徹底による資源化と記述があるが、収集体制として自治会の負担が増加している中、自治会の加入率も下がっている状況である。 藤沢市などは集積所での収集ではなく、個別収集を行っていることから、経費の問題もあるが、収集処理体制の充実の中に収集方法について見直しや検討と言った言葉が入らないか。	収集については、モラルの問題もあると思うが、協働のまちづくりを進めるに当たって、モラルの向上や収集体制について、様々な可能性も考えながら、担当課と調整いたします。